

# 発言通告書（質問）

次のとおり、**（1. 一般質問）** 2. 施政方針に対する質問 3. 緊急質問）の通告をいたします。

平成 22年 11月 日

富士市議会議長様

富士市議会議員 小池智明 印

受付 No. ....  
平成 年 月 日  
午(前・後) 時 分  
受理者

( 小池智明議員 2- 1 )

発言項目	都市計画公園の今後の整備と、公園長期未整備地域における公園代替機能の確保について	
	要 旨 （具体的に記入してください）	答弁を求める者
	<p>公園・緑地などの市街地のオープンスペースは、レクリエーションやスポーツ、自然とのふれあい、交流などの場として、また地震などの災害時の避難場所として、都市の骨格を形成するとともに豊かな市民生活を支える空間である。</p> <p>平成 22年 3月末現在、市内の都市公園の市民一人当たりの面積は 7.83 m<sup>2</sup>（富士山こどもの国は除く、以下同様）である。</p> <p>都市公園等の整備推進の指針として平成 11年に策定された「緑の基本計画」によれば、基準年（平成 8年）の 6.18 m<sup>2</sup>/人を、目標年である平成 27年には 17.89 m<sup>2</sup>/人にまで増やすことが掲げられている。</p> <p>この計画は、計画期間 20年間で都市公園等の整備総投資額を約 1,540億円、年平均では 77億円/年を前提としているが、実際には本年度（平成 22年度）の公園整備費予算が 6.3億円であることを考えると、その達成が困難であることは明白である。</p> <p>これは、現在策定中の第五次富士市総合計画でも、平成 32年の整備目標を 8.7 m<sup>2</sup>/人としていることから同じように考えられる。</p> <p>ここで都市公園の整備状況の内訳を見ると、都市計画決定に基づき整備が進められている公園（都市計画公園）の中では、市民全体が利用し、都市の骨格を形成する都市基幹公園は、広見公園（総合公園）、富士総合運動公園（運動公園）がほぼ完成し、また比奈公園（総合公園）も現在計画的に整備が進められるなど、整備率は比較的高く、市民満足度も高いと考えられる。</p>	市長及び 担当部長

一方、日々の生活の中で、歩いて利用できる身近な公園として配置が計画されている住区基幹公園については、標準面積 0.25ha の街区公園の整備率は高いものの、小学校区程度を基本に計画されている地区公園（標準面積 4.0ha）、近隣公園（同 2.0ha）の整備率は低い状況にある。

いわゆる「まちなか」エリアに位置する中央公園（地区公園）、米の宮公園、吉原公園（以上、近隣公園）等の整備は進んでいるが、特にその外側の住居系用途地域である今泉、伝法、岩松、富士駅南、富士南、田子浦地区等に配置が計画されている公園整備がほとんど進んでいないためである。

都市計画公園は重要な社会資本として計画的に用地を確保し、整備していく必要があると考えるが、財政的に厳しい時代の中では、運営管理を含めた整備の進め方、スケジュール等について、改めて検討する時期を迎えていると考える。

こうした中で以下の 4 点について質問する。

- 1 平成 20 年度までに都市計画道路については必要性再検証を行ったが、都市計画公園についての必要性再検証（廃止、変更等）についてはどう考えているか。
- 2 都市計画公園等の整備推進の指針である「緑の基本計画」（平成 11 年策定、平成 27 年目標）は、現状に即しておらず、また現在策定中の第五次総合計画とも整合が取れないため、早急に見直すべきと考えるがいかがか。
- 3 市街地周辺部（今泉、伝法、岩松、富士駅南、富士南、田子浦地区等）で計画決定されている都市計画公園が完成するまでには、非常に長い年月を要すると考えるが、こうした地域では、公園が有すべき防災、健康・レクリエーション、市民交流、風致等の機能をどう確保していくか。
- 4 3 で言う長期未整備都市計画公園が完成するまでの当面の代替として、計画面積より相当小さくとも、周辺の空地、農地等を借地等により複数確保し、公園的なオープンスペースとして供用していく考えはないか（「現実に即し、金をかけずに、市民参加で」を基本に、地権者等に対する富士市独自の税制優遇、補助制度等の創設や、地域住民の皆さんとの協働による整備・運営管理のしくみづくり等を取り入れながら）。

市長及び  
担当部長